

1. 単元名 農家で作られるもの

2. 単元の目標

- ・いちごの生産は、「食べたいときにいちごを食べたい」「大きく形のよいいちごを食べたい」「新鮮ないちごを食べたい」という消費者の願いと密接な関わりをもって行われていることを捉えることができるようにする。
(知識・技能)
- ・設備の管理や農作業、販売までの流れの、いちごの生産の仕事やそこに見られるそれぞれの行程は消費者の願いと密接に関わっていることや船越さんの思いや願いを説明できるようにする。 (思考・判断・表現)
- ・いちごづくりの工夫について主体的に学習の問題を解決しようとしたり、よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしたりすることができるようにする。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、「農家で作られるもの(いちご)」を教材として取り上げる。福岡のあまおういちごは、いちごの生産量として全国で2位の実績をもっていることや、子どもにとって身近な食べ物であることから、子どもが意欲をもって学習に取り組める教材と言える。そして本教材は、ビニルハウスの中のいちごづくりの工程や、いちごが消費者の手に届くまでの流れをもとに、生産に携わる人々の工夫を捉えることができる教材である。また、その生産に携わる人々の工夫は消費者の願いと密接に関わっていることを捉える上からも価値のある教材と言える。本教材で捉える生産者と消費者の関係は、4年生での人々の健康や生活環境を支える事業についての学習へと発展する。

また、教材としていちごを取り上げることで、いちごの旬の時期を捉えたり、いちごづくりにおける農家の人々の苦勞を捉えたりすることができる。このことは、自らの判断で食品を選んだり、食品を大切にしたりする等、食育の観点からも意義のある教材と言える。

(2) 児童観

本学級の子どもたちは、これまでに、自分たちの市の位置や、市の様子を大まかに捉えたり、土地の特徴による土地利用のされ方の違いを説明したりすることができるようになってきている。そこで、福岡市元岡ではいちごづくりが盛んであることを知り、関心の高まっているこの期に本単元を取り上げる。そして、いちご農家の人々の工夫を人々の生活と関連付けて捉え、生産の仕事に関心を向けることができるようにする。このことは、社会的事象に疑問を持ち、問題解決へ向かう子どもを育てる上からも意義深い。

(3) 指導観

本単元の指導にあたっては、農家の人々の工夫が消費者の願いと一致していることを捉えることができるようにする。まず、単元の導入段階では、給食の献立表をもとに、福岡市で作られている作物を調べたり、あまおういちごを食べた感想を話したりすることをもとに学習問題をつくり、学習の意欲をもつことができるようにする。次に、学習問題の予想を出し合い、出した予想をYチャートで仲間分けし、学習計画を立て、学習の見通しをもたせる。展開段階では、いちご農家の方はいちごをおいしく作るためにどのような工夫をしているのか、「設備」「作業」「その他」を調べ、農家の人々の工夫を捉えることができるようにする。そして、もっと知りたいことをインタビュー用紙にまとめ、いちご農家の船越さんのもとへ見学に行く。最後に、どうして船越さんはおいしいいちごをたくさん作ることができるか、クラゲチャートを使って考えを作り、話し合う活動

を通して、いちごづくりの工夫は消費者の願いとつながっていることを捉え、学びを深めることができるようにする。

(4) ESDとの関連

- ・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

多様性・・・私たちの身の回りには様々な食材があり、それによって様々な献立を楽しむことができること。

相互性・・・生産者と消費者は密接な関係にあり、この関係が維持されることで生産者も消費者も豊かになれること。

- ・本学習を通して育てたいESDの資質・能力

つながりを尊重する態度

いちごづくりの工夫について生産者と消費者の視点について考え、人と人とのつながりを大切にしようとする。

長期的思考力

これから農作物とどのように関わっていくことが大切か考える。

- ・本学習で変容を促すESDの資質・能力

世代内の公正

生産者も消費者も豊かになるような食料生産を追求することが大切である。

- ・達成が期待されるSDGs

2 持続可能な農業の促進


1 1 持続可能なまちづくりの促進

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①福岡市でのいちごづくりは、土地条件を生かしたり、生産を高めるための工夫を行ったりしながら行われていることを捉えている。	①いちごづくりの工程に着目して、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考えている。	①いちごづくりの工夫について主体的に学習の問題を解決しようとしている。
②生産の仕事は地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを捉えている。	②いちごをおいしくたくさん作ることができるわけを、いちごづくりの工夫とその工夫の理由を合わせて表現している。	②よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている。

5. 単元の指導計画（全11時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1	<p>1. 給食の献立表、を使い、福岡市ではどんな作物が作られているのか調べた後、福岡市の代表的な作物である、あまおういちごを食べた感想を出し合い、学習問題を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福岡市では様々な農作物が栽培されているね。 ・産地を意識したことがなかった。今度買い物するとき見てみようかな。 ・福岡のいちごはおいしくて有名だと聞いたことがある。おいしいいちごはどうやって作られるのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あまおういちごのおいしさの秘密に関心をもたせるために、児童があまおういちごを食べたときの写真を提示したり、全国のいちごの生産量グラフを提示したりする。 	<p>ウ① (主体的)</p>
<p>なぜ船越さんはおいしいいちごをたくさん作ることができるのだろうか。</p>			
2	<p>2. 学習問題の予想を出し合い、出した予想を仲間分けし、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肥料を使っていそう。 ・水やりをしっかりしていそう。 ・広い土地で育てていそう。 <p>3. 設備の工夫を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビニルハウスでいちごを育てることで、収穫できる期間が5か月も伸びている。 ・ボイラーで暖かい空気を出して、いちごに霜がついて痛むことを防いでいる。 ・天井に電灯をつけることで、明るい時間を長くし、いちごの成長を早めている。 <p>4. 船越さんの作業の工夫を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苗を冷やすことで、いちごの成長がずれ、長い間収穫できるようにしている。 ・ミツバチを入れることで、花粉がつき、形の良いいちごができるようにしている。 ・花を摘むことを手作業ですること、大きいいちごに育てるようにすると同時に、いちごの様子を観察している。 <p>5. その他の工夫を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新鮮なうちに運ぶために、高速道路が使われている。 ・収穫してから運ばれるまで、冷蔵庫で冷や 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習計画を立てやすくするために、子どもから出た疑問や予想を「設備の工夫」「船越さんの作業の工夫」「その他の工夫」と、視点ごとに分類しながら板書する。 ・調べる意欲を持たせるために、ビニルハウスの写真を提示し、ビニルハウスの中でどんなことが行われているのか予想を膨らませる。 ・工夫の目的を捉えることができるようにするために、「収穫の期間」「形・大きさ」「安全さ・新鮮さ」に分類させる。 ・調べる意欲を持たせるために、いちごを作っている場所・いちごが売られている場所を問い、どのようにいちごが私たちの食卓に届いているのか疑問をもたせ 	<p>ウ① (主体的)</p> <p>ア① (知・技)</p> <p>ア① (知・技)</p> <p>イ① (思判表)</p>

	<p>されており、運ぶ時も冷蔵庫付きのトラックで冷やされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集荷場から青果市場まで 40 分で運ばれている。 <p>6. 船越さんのいちご農園へ見学に行く。</p> <p>(1) 船越さんへの質問づくりをし、班で質問の質を高める。</p> <p>(2) いちご農園へ見学に行き、いちごづくりの工夫についてインタビューする。</p> <p>(3) いちご農園へのお見学でわかったことをまとめる</p>	<p>る。</p> <p>○学んだことを振り返ることができるようにするために、「見て分かったこと」「聞いて分かったこと」をワークシートにメモさせる。</p>	<p>ア① (知・技)</p>
<p>なぜ船越さんはおいしいいちごをたくさんつくる工夫をしているのだろうか。</p>			
	<p>7. なぜ船越さんはおいしいいちごをたくさんつくる工夫をしているのか話し合い、学習問題の答えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつでも新鮮でおいしいいちごを食べたいという私たちの願いに応えるために、様々な工夫をしているんだね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したそれぞれの工夫を船越さんの思や願いとつなげて捉えることができるようにするためにクラゲチャートを用いる。 	<p>ア② (知・技) イ① (思判表)</p>
<p>3</p>	<p>8. 船越さんの工夫を知ったわたしたちにできること考え、話し合う。</p> <p>船越さんの工夫を知ったわたしたちにできることは何だろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・船越さんの工夫を知ってもらい新聞を作りたい。 ・農作物の背景には生産者の苦勞があるからなるべく残さず食べるようにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が新聞づくりに参加できるようにするために、船越さんの思い、いちごづくりの工夫、社説に役割を分担する。 	<p>ウ② (主体的) イ② (思判表)</p>

6. 実践の成果と課題

子どもたちの食べ物を大切にしようとする気持ちを強められたことが実践の成果である。学習を通して、子どもたちは、生産者である船越さんの思いを捉えることができた。その船越さんの思いを自分の生活と結び付けて、自分にできることを子どもたちは単元のまとめにノートに記述していた。

ふりがえり
 今までは、農家。で、こんな、工夫があるのかしらなかった。
 わかったことは、ふなこしさんは、お客さんにおいしく食べてほしい思いでいろいろをうけているのかわかった。
 これからは、ごはんとかをつくらせてくれる人におれいをいったり、のこさず食べたいと思います。

今までしてしていたことはいちごもそだてている、ビニルハウスでいちごもそだてていることです。わかったことは、ふなこしさんのいちご見学の前に電とつとならなかったが電しょうといっていました。これから、ふなこしさんはのこさずたべてもらいたいとおっしゃてました。だから、農家ではたらいしている方、も同じ気持ちでやっているとつくのて、のこさずたべたいです。さういなものもたべます。

ふりがえり
 今までは、農家のかたがたの思いをしらぬにきらいな物はのこしたりたぐなかつたりしてました。わかったことは、農家のかたがた牛などをかっているかたがたのくろうやたいせんさなどがわかりました。
 これからは、農家のかたがたのおもいやくろうがよくなりました。これからは、たべものをのこさずかんし、のきもちをもつたべものをたべたいと思います。

ふりがえり
 今までは、毎にじょうろだけで水やりをしていると思っていました。わかったことは、いろいろな工夫をしていることです。ふなこしさんはみんなにおいしくのこさずに食べてほしいというのわかりました。これからは、きょうしよくにたべてたべたい。ごはんものこさずにおいしく食べます。

この成果に至るのに、有効であった手立ては、思考ツールのクラゲチャートを活用したことと、船越さんへのインタビューの場を設けたことであると考えられる。

思考ツールのクラゲチャートを活用したことが有効であったと考えられる理由は3つ挙げられる。まず、船越さんがおいしいいちごをたくさんつくるためにどのような工夫をしているのかを一目見て分かるようにまとめることができたことである。次に、船越さんがいちごづくりの過程でたくさんの工夫をしていることを視覚的に捉えさせることができたことである。そして、それらの工夫は、船越さんの「お客さんにおいしいいちごを食べてほしい。」という思いとつながっていることも視覚的に捉えさせることができたことである。このように、クラゲチャートを活用することで、船越さんの工夫と思いを子どもたちに捉えさせることができた。



船越さんへのインタビューの場を設けたことが有効であったと考えられる理由は、子どもたちの振り返りの記述の中に、船越さんが直接語られた思いが多く見られたからである。このことから、実際にいちご農園に見学へ

行き、作っている方から直接聞いたことは子どもたちに印象深く残っていると考えることができる。

実践の課題は、本学習で「生産者と消費者は密接な関係にあり、この関係が維持されることで生産者も消費者豊かになれること（相互性）」の視点を働かせることが不十分であったことである。お客さんの求めるいちごをつくることで、いちごが売れて船越さんはいちご農家を続けることができることに気づかせたかった。そのため、船越さんの思いを捉える学習の直後に、「こんなにたくさんの工夫をすることで、船越さんにとって良いことはありますか。」と発問した。子どもたちからは、「食べる人の笑顔が見られる。」「おいしいと言ってくれると嬉しい。」など、心の面での答えが返ってきた。ここで、「いちごが売れてお金が手に入る。」「またいちごを作ることができる。」など、生産者と消費者の関係を維持する経済面での答えを得られるようにしたい。そのためには、学習の過程で、船越さんはいちごを生産する上で費用がかかっていることにも触れながら学習を進めるようにしたい。

現在の学年終了時に目指す姿

人と人とのつながりを知り、自分を大切にすることで他者を思いやることができ、他者と協力して学習したり、他者のために行動を起こしたりすることができる。



社会科「農家でつくられるもの(いちご)」

いちごの生産者の船越さんは、いつでもおいしく新鮮ないちごを食べたいという願いに応えるために様々な工夫をしていちごを育てていることを捉える。また、船越さんの思いやいちごづくりへの姿勢から、農作物と自分の関わり方について見直すきっかけをつくる。

いちごの実ができるまでにこんな苦労があったんだ。

毎日水やりと草抜きをがんばってよかった。

総合的な学習の時間「食べ物ってなんだろう」

○主に養いたいESDの資質・能力
つながりを尊重する態度

生命のつながりがわかり、生命を大切にしようとすることや、生産者と自分をはじめ、人と人とのつながりを大切にしようとする態度を養う。

○主に育てたいESDの価値観
相互性

人間と自然や生産者と消費者には密接な関係性があること、この関係が維持されることで両者が豊かになれること。

種からこんなに成長して、また種ができるのがふしぎだな。

昔の人の工夫のおかげで今の食事があるんだね。

「いただきます」をただのあいさつにはいけないな。

道徳科「いただきます」

「いただきます」とは、何をいただいているのか生命のつながりから考えることを通して、他の生命のおかげで自分の生命がなりたっていることに気付き、自分と他の生命を大切に生きてみようとする態度を養う。

ダイズがこんなにたくさん食品になっていたなんて知らなかった。

理科「植物の育ち方」

自分の手で植物を育てることによって、児童は、植物の育ち方や繁殖の仕方を捉えるだけでなく、土や水の管理の大変さを体験しすることができ、また、植物を世話することと花を咲かせた感動から生命を尊重する態度や生命への愛情をもつことができる。

国語科「食べ物のひみつ教えます」(光村図書)

食べ物についての説明文を書くという目的もしながら、「すがたをかえる大豆」を読んでいく。文章で読み手にわかりやすく伝える技能を養うとともに、食の多様性や、先人の知恵のありがたさに気づかせることができる。